

高校は半年の空白の後をうけ、今後の活躍が期待される



生徒会の抱負

五十年前期

また、いろいろやりたい事でも
てきました。食費では、屋敷に家
から持ってきた冷めた弁当を食べ
ずに（早弁をする人は暖いうちう
ち食べられるかも知れませんが）

々な事に遭遇しました。まず先輩の方から文化祭の必要性ということを教えられました。文化祭は期間こそ三日間ぐらいですが、その準備のためには多くの日を要します。文化部などの展示はそのクラ

前期
雲の抱負
高橋 匠

洛星新聞編集局
京都市北区小松原南町
TEL (463) 3281 (代)

印刷 徳吉川印刷工業所

ないことです。時間厳守と静謐
らしい守らなければなりません
(会員紹介の時も書きませんが
皆さんどうか守って下さい)
食堂の利用の仕方もあるあり
せん。その他色々、やりたい事
数多くあります。またこれから
どんどん増えてくると思います。
しかし、僕等ではできる限りそ

あるのなら、もっと安く売るべきです。今年から中西書店さんが販売を引き受けられましたが、できるだけ安く売って欲しいものです。

暖い居食を食べる事ができます。
さらにパン類、麺類、ご飯類と位
みの物が選べます。しかしその硬
度は決して安くなく、何とかならな
いかと考えさせられます。

局員募
投

私はこの度、会長に立候補し
信任投票に敗れ、再選挙で再び
候補として立選するという、前代



生徒会長に
中学生徒会

に挑戦するつもりです。しかし、最後まで成し遂げられるかどうかはわかりません。

従つて僕等は「これこれを行います」というように公約はしません。ただやってみたい事にやる限り努力します。どうか僕等を見守ってください。

稿歡迎

ます。その経過からい
私が立候補を届け出たのは
19日。立候補受付は2日目でま
た。その後数人の人々に立候補
うわさが立ったが、とうとう参
りまで立候補は出なかった。
長選挙はこのように平和!!とな
ったのだが、監査局長に
来、副会長には2人の候補者が

に就任して
長 浅井 潔
一関の貴重な経験をした。

毎日、試験の際には一、二名が、今回は異常に欠席者が多くなつた。又、欠席者は赤い発疹、高熱を呈した。一週間間臨時休校にした。原因その他は調査中である。

試験中に
臨時休校
学校創立以来の事
六月二日から前期中間考査が
なわれたが、二日に十八名、三
日に二十名欠席（保健部発表）。

ペンシルを強奪し……」と
た。選挙の再三の警告を無視
のことであったので問題とな
が、結局処分は行なわれな
た。

この様な妙な選挙の中で、
補者定数のため信任投票とな
会長選でも異変が起った。

4日の立憲国会の私の演説

立した。特に副会長候補はあ
げりなボスター上で、対立候
個人的な、選挙とは何の関係
い非難を行ない、選挙委で立
取消しを検討までしたところ
立会演説会で「対立候補の

さて、最近の生徒会という
を考えると、あまりにも、
部と、会員である生徒が、断
ずきているのではないだろう
つまり、生徒から見ると「生
なんて、あってないような物

生徒会に望むこと

4月22日会長高橋君、副会
村君、書記長井山君が信任
た。昨年夏の後期の生徒会が
しなかったこともあって、前
校生徒会が充足するかどうか
配されていたのだが、このよ
四 無事に充足して、まずは、ひ

立候補のC君が対立候補
 として、先にあげた3つの事項
 とした上で、私の当初から
 であった会則改正を訴えた。
 会は成功であり、翌日の選
 挙の勝利をなしたとげた。

視され、誤解をまねいた。3、投票の際、不信任への誘いがあったこと。

文化祭など、毎年やるものでは、生徒が生徒会に対して味を示さないのは、当り前絶しる。

したがって、今年の生徒会からはならないことは、生徒役割というものを、もう二度

と
といふことになつてゐる。
こんな状態では、本言
会なやでないほうが、良い様
がするのである。

で、どうして、この様
になつてゐるのであるか。
は、生徒会の行なう事が、
じでマンネリ化しているか
ないだろうか。予算の配分、

	HⅡD	山口
として		
演説会 を開題		
の公約		
演説		
季節では		
のである		
	HⅡC	高橋
	HⅡC	鋳田
	HⅡD	宮川
会計	HⅡA	桂
専門委員長		
風紀		
文化		
体育		

こと。
強制が
念のA
ミラフ
に立候
に前

執行委員
HⅡA 西川

書記長
HⅡB 井上

副会長
HⅡC 鍵村

会長
HⅡB 高橋

幹部

高校生徒会役員

「興 会長の高橋君にしても、
 であ 執行役員にしても、まじ
 がそ りてゐるので「今年
 の会 は、一味ちがうぞ」とい
 うよ うに、きつと頑張つてく
 ると 期待してゐるのであ

[illegible]

榮輝 ある▼「四無主義」など
 良輔 た生徒会役員に拍手を送り
 宣宏 ▼この新聞が発行される時
 和彦 になっているかわからないが
 敏之 生徒会も準備期間不足を
 このような問題は、生徒会

貝
 佳昭 匠
 公敏 聡
 周年のイメージ作りに一役
 いたようだ▼さて文化祭
 が、去年の文化祭の際中・
 会が、教職員に対し、日程
 申し出た。残念ながら変更
 かったが、生徒会の動きが
 なったような気がしたのも

もういよいよ四半世紀をむか
 けである。それに伴い色々
 が行なわれることだろう▼
 四年前、洛星創立二十周年
 文化祭もすばらしいものだ
 新聞局も「洛星二十年の歩
 い」シリーズ連載を行ない

も、是
権が与えらるる年金である

の二年
少し
企圖し
とも
になる
と、考
へても
える。

しか
来年は落星創立二十五周年を
迎える。人間でいえば衆議院の
人々といふのは、鬼が笑うような談話

▼さて、鬼が笑うような談話

▼今年四月八日
一年生の入学式寸前に行な
われた。今年は
二名が落星中学
四年生として入

笠衣

いわれ
ちう」
てくれ
たい。
はさう
今年
理由に
ある。
員の結

かかって
である
高生徒
変更を
されな
近くに
事実で

はえるわ
な行事
今から
の時の
こつた。
とみ」と
二十

新日本が挙行
は、一九二
二十年第二十
学した
出だが、
年にな
級選挙
。洛星

ここに本年度の本校卒業生の大学合格者数を御報告するとともに、昨年より一層の上げ潮ムードを喜びたいと存じます。

最近は一層の勉強ムードが戻つて来た（特に高3では）のではなからうか。また、競争の激化に伴い予備校の講習の申込みのために徹夜で並んだとか涙ぐましい話まで耳に致します。

やはり学校、私ども教師の立場から云えば、予備校の受講も結構ですが、やはり学校の勉強をもっと大切にしてほしい。H3のみならず、H1、H2からと云うのが本音なのです。ともかく、本年度大学入試合格の成績を御紹介するとともに、来年度の成績の一層の躍進を期待したいものである。（宮山記）

大学名	現			卒			計
	文	理	医	文	理	医	
信州大					1		1
岐阜大			1				1
滋賀大				1			1
京教大				2			2
京工織大		1			2		3
大外大				1			1
和歌山大	1						1
富山大			1				1
防衛大	1			1		1	3
気象大		1					1
計	19	18	5	15	9	11	77
京府医			3			7	10
神商大		1		1	2		4
帯広畜産		1					1
京府大				3	1		4
大府大					1		1
神外大	1						1
高崎経				1			1
計	1	2	3	5	4	7	22

大学名		現			卒			計
		文	理	医	文	理	医	
早大					16	2		18
慶応		11	2	1	6	2		22
中央		3						3
上智		1			1			2
東海			1					1
京都薬				2				2
同志社		5	10		9	6		30
立命館		5	4		10	2		21
関大		1	1		1	1		4
関学		5	2					7
甲南大		2			2			4
大阪歯				1			1	2
大阪医				4			9	13
関西医				1			3	4
自治医							1	1
その他		2			2		2	6
計		35	20	9	47	13	16	140
合格者計				現	卒	計		
国立大 (I, II)				71	60	131		
公立大				6	16	22		
私立大				64	76	140		
合計				141	152	293		

僕は生徒会
18期卒業生
野村幸弘

洛星は、公立の学校とは異なり
高校入試がなしたため、高一は中三
の延長の気持ちであった。そのため
部活動に明け暮れた日々であ
った。僕の属す陸上部は、比較的
試合数が少ないので、試合と試合
の間の体調作りばかりに専念して
いたと記憶する。この年で、僕の
部員生活は終わるのだった。印象
深かったのは、大雪の日に原谷へ
走りに行った時のことである。

文化祭も無事に終わり、一
段落すると、今度は前期決算であ
る。これも大変で、なくなった額
収書を何とかし、合わない計算を
合わせたのであった。十一月に生
徒会が満期になり、十二月になっ
てやっと落つき、解放の気分にな
っていった。しかし、今から思う
とこの時は、ほんでできる身分で
はなかったのである。というのは、
は、大学入試という、厚くて、高
い壁が、すぐ目の前に迫って来
ていたのである。その気持ちで、
最終学年高三へと進級した。三年
になっても受験ということ、余
り気にも止めずにのんびりとして

卒業にあたって

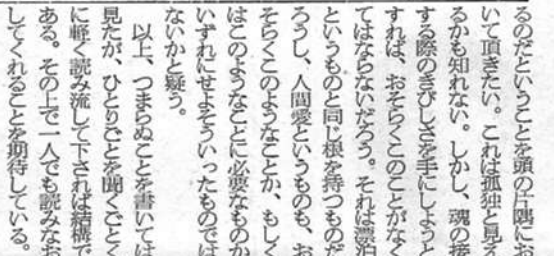
18期卒業生

鍋田 武志

長いようで短い六年間など言われると、つい反抗して、いや六年間は長かったなと言ってしまうのだが、どうやら長くても短いというのが本音らしい。その六年間に何らかのことに真剣であることは大切なことであろうし、私もその点では満足している。

るのだということを頭の片隅において頂きたい。これは孤独と見えるかも知れない。しかし、魂の接する際のきびしさを手にしうとすれば、おそらくこのことがなくてはならないだろう。それは漂泊というものと同じ根を持つものだろうし、人間愛というものも、おそらくこのよきなところか、もしくはこのよきなことに必要なものかといふにせよ、いったものではなからうか。

以上、つまらぬことを書いては



クラブ活動状況

軟式庭球部

高Ⅰ 総体
岡・結城組
田宮・前田組
和久田・宮川組
いずれも三回戦で、臨時休校の
ためやむを得ず棄権。

高Ⅱ 総体
三回戦で大辻・林組が山城高の
前納・立入組に3-0で敗れる。

上萩・山崎組インターハイ出場
決定。

団体戦
塔南2-1洛星

陸上競技部

三年の本崎君が四百米で、五十
五秒八で優勝。

高校総体
一年の浅野君が走り幅飛びで、
六米三十八で優勝。

本年度の各学年の研修旅行についてご紹介します。

中 一

○期日 八月四、五、六日

○行先 吉野・洞川方面

生徒間の親睦を深め、集団行動に慣れさせるため、吉野の竹林院等に泊り、ハイキングや飯盒炊さん等を行う。

水泳部

中学総体
総合二位

高校総体
臨時休校のためやむなく棄権

野球部

中学
準々決勝まで進んだが、臨時休校のためやむなく棄権

E・S・S

高校
近畿高等学校E・S・S連盟主催
暗唱大会で一位と三位に入賞

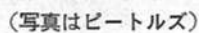
オーケストラ部

オーケストラ部は、去る四月七日、大阪国際フェスティバルの開幕式に出演し好評を得た。フェスティバルホールという絵舞台を、国家演奏はおもしろく、続く祝典演奏リムギ・ユルサコフの序曲「ロシアの復活祭」は「プロ顔負けのよいみない」みことな演奏（サンケイ新聞）で立派に飾った。演奏が終わると各国の大使をまじえた来賓からも盛んな拍手をうけ、指揮の小笠原先生も、頬の筋肉をはくころはげながら、それに答えていた。

能楽鑑賞会の
日程決まる

六月初めの臨時休校以来延期されてきた能楽鑑賞会の日程が去る七月七日の職員会議で決定した。それによると、十二月二十六日の水曜日の午後、予定通りのプログラムで実施される。本来ならば六月十一日に行なわれるはずであったが、六月五日から十一日まで休校、能楽鑑賞会はそれ以来延期されていた。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆



の行方

王座として着臨するのはレッド・ツェッペリン。以下、ディープパープル、ナサレス・ユーライア・ヒップ、サ・フリーなど、いずれも大物と呼ばれる、コンサートでは観客動員数五、〇〇〇人は固いグループが自白押してあるが、全体とてさうでもない二つパツとしたところがない。それが故にクイーンなどという女・ガキ向きのくだけたロックが持てはやされるようになったってしまった現状に落胆、失望する昨今である。

く、演奏もうまく一昇、そうつまらないグループには見えないが、ハートがない。つまり演奏において、人に訴える何かに欠けるのである。従つてパワー、重量感という面において、大に他のハードロックグループに劣る。だから所詮イモなのだ。このように、その一挙一動が世界全体を揺がすような超スーパークラブ（例えば、63・65年のビートルズ）が存

新入生歓迎公演

今年も四月にオーケストラ、演劇、謡曲の各部による新入生歓迎公演が新講堂で行なわれた。

先ず十二日、オーケストラ部がチャリティコンサートを行った。本年も外部から多数の人が来られ、新講堂は満員になる程の盛況であった。

曲目はシベリウス交響曲第二番」と、十三期卒業生の浜田恵さ

今年度から顧問に英語科の藤田生が入られ、待望の中学生の局

い。そこでイギリスではバッドカンパニー、アメリカではモンロー・ス・ジャニーなどが、その候補として上げられているのだが、どのグループも少しオリジナリティに欠ける。63年、ビートルズが登場したときには、他にあのよう大きな資力とハードな感覺（当時としては、あくまでも）を持ったグループはなかった。そのように、他のグループにない、いや、「？」をつけざるを得ない。

人のお姉さん、浜田尚子さんのピアノ独奏による「グリーク・ピアノ協奏曲」その他であった。

なお、そのチャリティーのお金は、亀岡の重度身体障害者施設である「花明学園」に寄付された。

十九日には、演劇・謡曲両部の公演が行なわれた。

演劇部は「死神やらい」を謡曲部は、仕舞「安宅」その他を演じた。

今年度から顧問に英語科の藤田先生が入られ、希望の中学生の局員も入ってきた。ようやく局も体形を整え、活動もスムーズにいくようになり、局再編成以来二回目の発行となった。顧問の宮山先生をはじめ局員の意気も高まり、新聞局への期待に十分答えてくれるであろう。

編集後記